

第14回 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム

“One Health”

アプローチで取り組む薬剤耐性対策

～薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果と次期展望～

今般、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、医療危機、社会経済的な危機が生じていますが、人と動物の共通感染症であることから、人と動物等の保健衛生の一体的な推進（“One Health”アプローチ）の必要性に社会的な関心が高まっています。

薬剤耐性（AMR）対策も、“One Health”アプローチに基づき、医療、産業動物診療、小動物診療、農業生産、水産養殖、食品安全等広範な分野で相互に情報提供を行いつつ、それぞれの分野で有効な対策を講じていくことが不可欠です。

本連携シンポジウムは、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの取組みと今後の課題について検討した上で、医療・獣医療等の現場の他、環境分野における薬剤耐性（AMR）対策の実践事例や研究的な取組について紹介を行い、ヒト・動物・環境における薬剤耐性（AMR）対策の一層効果的な推進に資することを目的として開催します。

開催日時：令和3年11月30日（火）13：00～17：30（予定）

開催形式：Webによる開催（リアルタイム配信及び動画配信）

＜参加費：無料＞

シンポジウムの申込み：<https://onehealth-sympo2021.tsukurusu.com/>



第一部：薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果と今後の課題

〔特別講演〕

1 医師側の提言「医療分野における薬剤耐性菌の現状と課題」

矢野 寿一（奈良県立医科大学医学部教授）

2 獣医師側の提言「動物分野における薬剤耐性菌の対策と課題」

浅井 鉄夫（岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授）

第二部：医療、獣医療及び環境分野における薬剤耐性対策等の紹介

I 医療、獣医療及び環境における薬剤耐性対策の取組みなど

- ・「愛玩動物診療現場における抗菌剤の慎重使用の取組」
伊従慶太（株式会社VDT 最高技術責任者）
- ・「こども病院と地域の抗菌薬適正使用の取り組み」
荘司貴代（静岡県立こども病院 総合診療科／小児感染症科 感染対策室長）
- ・「医療排水中における抗菌薬及び薬剤耐性菌の実態と不活化法の開発」
東 剛志（大阪医科薬科大学大学院薬学研究科 助教授）
- ・「茨城県の養豚場におけるAMR関連調査成績」
藤井勇紀（茨城県北家畜保健衛生所）
- ・「養豚場における抗菌剤の慎重使用推進に資する研究」
小林創太（農研機構 動物衛生研空門 人獣共通感染症研究領域 腸管病原菌グループ
グループ長補佐）

II 医療、獣医療及び環境分野における薬剤耐性対策の現状と対策

- ・国内の環境分野におけるAMR対策の現状と対策（環境省）
 - ・国内の医療分野におけるAMR対策の現状と対策（厚生労働省）
 - ・国内の獣医療分野におけるAMR対策の現状と対策（農林水産省）
- （すべての議題は仮題です）
（講演の順序は変更することがあります。）

主催：農林水産省

問合せ先：第14回 日本獣医師会・日本医師会による連携シンポジウム事務局（株式会社ツクルス内）
E-mail. onehealth-sympo2021@tsukurusu.com